

路線バス延長

事業者と市がそれぞれ果たすべき役割を担いながら、中核となる医療機関を結ぶことや、公共施設の利活用、通学など市民生活の基本部分の利便性向上に加え、買い物や趣味など生活を樂しめる部分も視野に入れていかなければならないと考えています。

こうした考え方・方向性に基つき、市民要望の多い国道7号バイパス豊祥岱交差点から、医師会病院・おとも苑方面への路線に関して、事業者と話し合いを行ってききましたが、このたび、秋北バス株式会社から市内線を延長することで対応し、4月から運行する方向で進めたいとの意向が示されました。この路線延長は、本市が考える交通手段確保の方向性に沿うものであり、さらに事業者と意見を交換しながら、実現に向けて努力してまいります。

環境学習旅行

1月17日、18日に、能代山本地区における環境学習旅行について、意見交換会が開催されました。引き続き、環境学習旅行の受け入れ態勢及びコースの充実を図ることが必要であると思っています。なお、修学旅行については、本年秋に、千葉と埼玉の県立高校と都立高校の3校が能代山本地区を訪れる予定となっています。

冬季観光の推進

1月10日から13日まで有楽町のふるさと情報プラザで、2月2日、3日は日本橋プラザビル前で、能代観光協会とともに観光物産PRを実施しました。今後とも、冬季観光の推進のため、観光宣伝及び食や伝統工芸など地場産品のPRを行ってまいります。

「地産地消」運動

市では、昨年7月に能代市地産地消推進協議会を設立し、この2月に本市における方向性等を明らかにした「能代市地産地消推進計画」を策定しました。計画では、市民の誰もが、その恩恵を受けることができる体制を築くため、基本的な方針として、地場産農産物の利用促進、情報提供とPR、地産地消を活かした産地づくり、環境に優しい農業の推進などを定めています。

平成18年産米の生産目標数量

今年度を766ト下回る1万8384トとなったことから、能代市水田農業構造改革推進協議会では、17年度において努力、工夫した農業者には生産調整面積換算で17年度並みの31・26割、その他の農業者には、47・66割の傾斜配分を行い、農業協同班長会議を経て、農家に通知しています。

能代産業廃棄物処理センターからの処理水

県では、処理水の水质は河川放流できる基準を満たしているものの、当面は地域住民に配慮し、公共下水道に放流していかざるを得ないとしており、使用料についても公益上の観点から免除を要請しております。

18年度においても、引き続き処理水を公共下水道に受け入れるとともに、下水道条例に基づき公益上の観点から使用料を免除したいと考えています。

浅内小学校校舎建設工事及び同体育館建設工事

年度内の完成に向けて、どちらも順調に推移しており、1月末現在の進捗率は校舎が約8割、体育館が約8割程度あります。

現在、校舎は内部の壁クロス張りや床フローリング張りを施工中であり、体育館はミーティングルームや更衣室、器具庫、廊下等の内装を施工中であります。5月の連休明けから新校舎での授業を開始できるように、備品等の配備や既存備品の移動作業を進めてまいります。

市庁舎及び市議会議事堂の歴史的価値や庁舎群の活用

2月17日にその報告会を開催しました。これらの建築物は、市民共通の財産であり、大火からの復興という輝かしいシンボルでもあることから、未永く残して活用していただきたいとの報告がありました。今回の調査結果を踏まえ、地域のシンボルとして保存していくため、登録有形文化財の申請を検討してみたいと考えています。

第12回合併協議会

2月3日、第12回合併協議会が開催され、一般職の職員の身分の取扱いなど3項目の調整の具体的内容と合併協議会会計の中間監査が報告されましたほか、補正予算案、協議会廃止案が提案され、いずれも原案どおり承認されました。これにより合併協定項目に基づくすべての協議、報告を終えました。合併に向けてご理解、ご支援を賜りました市民の皆様には厚くお礼申し上げますとともに、これまで議員の皆様には多大なるご尽力を賜りましたことに対し、深く感謝申し上げます。

さまざま分野で課題が山積しておりますが、合併協議の中で話し合われた多くのことを踏まえながら、信頼関係のもとで、市民と行政がともに手を携え、さらなる協働のまちづくりを進め、新市が着実に発展していくことを心から願うものであります。